

公共施設マネジメント～公共施設の老朽化問題について～

アナ： 「市長が語る 2019 三島」第 7 回の今日は、「公共施設マネジメント～公共施設の老朽化問題～」についてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお願ひします。

市長： よろしくお願ひします。

アナ： 公共施設と聞いて思い浮かぶのが、市役所の庁舎、小・中学校、市営住宅、市民体育館などがありますが、「公共施設の老朽化問題」とは、一体どのようなことなのでしょう。

市長： 本市では平成 28 年時点で約 30 万 1 千平米の公共施設を保有しております。その多くは、高度経済成長期の急激な人口増加や社会環境の変化に対応するため、昭和 40 年代から 50 年代に整備されてきました。

そのうち、大規模な改修が必要な目安とされている建築後 40 年以上を経過した建物が全体の 27.8%に当たる 8 万 4 千平米、建築後 30 年以上が経過した建物においては全体の 57.7%に当たる 17 万 4 千平米ございますが、それらの公共施設が、近い将来、一斉に改修や建替えの時期を迎えようとしています。

アナ： 公共施設の改修や建替えには、多額の費用が必要になると思いますが、公共施設を維持していくことは大丈夫なのでしょう。

市長： 社会保障人口問題研究所による人口推計では、2015 年の人口約 11 万人から 30 年後の 2045 年には約 8 万 5 千人となり、30 年間で三島市の人口は 22.8%減少すると推計されています。

特に市税等を納めて頂く 15 歳から 64 歳までの生産年齢人口につきましては、35.1%減少し、今後は市税の増収も見込めなくなることや、将来的な少子高齢化に伴う社会保障費の増加により、本市の財政状況は一層厳しさを増すことが想定され、今ある公共施設をこのまま維持することは大変厳しい状況となっております。

アナ： 「人口減少や人口構成の変化から、今ある公共施設をこのまま維持することは大変厳しくなってくる」ということですが、このような状況を打開する策としては、何があるのでしょうか。

市長： 本市では、財政計画と整合を図りながら公共施設の総合的かつ計画的な管理の推進について定めた「公共施設等総合管理計画」を平成 28 年 3 月に策定いたしました。

次の段階としてこれまで、長期的な視点で個別の公共施設について、統合、複合化、現状維持などの対策内容を定め、その対策内容に応じた、施設の解体、建替え、大規模改修などの実施時期を明らかにした「個別施設計画」の策定作業を進めてまいりましたが、この度、その素案がまとまったところです。

アナ： 個別施設計画の素案がまとまったということですが、私たちが普段利用している公共施設が今後どうなるのか、大変気になるところです。素案の周知はどのようにしていくのでしょうか。

市長： 個別施設計画の素案につきましては、広報みしま 5 月 1 日号に掲載しております。

公共施設は、各地域において充実した市民生活を送る上で必要不可欠なものですから、単なるコスト論にとどまらず、人と人をつなぎ、地域を元気にする公共施設の役割やその再生を目指して、市民の皆様と知恵を出し合いながら、計画を策定していく必要があります。

アナ： 「市民の皆様と知恵を出し合いながら計画を策定したい」ということですが、私たち市民の声を把握する具体的な取り組みはありますでしょうか。

市長： はい。広報みしま 5 月 1 日号でもお知らせしているところですが、市内 14 の小学校区において市民懇談会を 5 月 21 日（火）の錦田小学校区を皮切りに 7 月 22 日（月）までの日程で開催してまいります。

市民懇談会では、はじめに、本市の公共施設を取り巻く状況や、市が作成した個別施設計画の素案の概要を説明いたします。その後、参加者同士で、市が作成した個別施設計画の素案を「たたき台」として、地域の課題や皆様が必要とする公共サービスや公共施設について、まちづくりの観点から意見交換をして頂き、最終的にはグループごとの意見をまとめて頂きたいと考えております。

アナ： 市民の皆様から、将来のまちづくりのためになるような、貴重なご意見が頂けるといいですね。

市長： はい、頂いたご意見につきましては、できる限り計画に反映させ、将来にわたり持続的に発展し続ける三島のまちづくりの実現に向けて、市民の皆様のご理解とご協力を得ながら取り組んでまいりたいと考えております。

アナ： 豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長： ありがとうございました。